

立川市教育委員会 殿

学校名 立川市立第二小学校

校長名 田中光晴 印

令和2年度 教育課程について（届）

このことについて、立川市立学校管理運営規則第12条に基づき、下記のとおりお届けします。

1 教育目標

（1）学校の教育目標

ア健康で明るい子（自他の健康安全に配慮でき、すすんで心身の健康の保持増進に努める児童）

イ進んで学習する子（基礎学力を基盤に、諸能力を活用し協働して問題解決に努める児童）

ウ心豊かで思いやりのある子（他者を思いやった行動ができ、すすんで共助共生に努める児童）

（2）学校の教育目標を達成するための基本方針

ネットワーク型学校経営システムの下、学習指導要領の理念を踏まえ、新たな教育課題に対応しつつ全児童の幸福を願い、知・徳・体、調和のとれた豊かな人間性を育む。さらに、社会に開かれた教育課程の創造をもって、将来いかなる環境においても、他者と協働しながら目前の問題に対峙し、より良い生き方を選択できる「生きる力」の育成を目指す。

また、昨年度より始まったコミュニティ・スクールの仕組みの中で、地域学校協働本部の効果的運用を図るとともに、カリキュラム・マネジメントを通して教育活動の充実を図る。併せて、教職員の働き方改革を推進し、児童と向き合う時間の創出に努める。

ア「健やかな体」の育成（学校教育目標「ア 健康で明るい子」）

- ① 都体力テストの結果検証に基づき、瞬発力・投力・調整力を重点に体力向上を図る。
- ② 「立川スタンダード20 ~体育・保健体育編~」に基づき、日常の体育科指導の充実を図るとともに、一校一取組運動としての業間運動（持久走、縄跳び）の充実を図る。
- ③ 保健指導や中休み全校外遊び、体力向上推進月間の取組を通し、健康の保持増進を図る。
- ④ 学校給食と学校図書館との連携及び外部人材の活用を通し、食育を推進する。

イ「確かな学力」の定着（学校教育目標「イ 進んで学習する子」）

- ① 国・都学力調査や東京ベーシック・ドリルの結果検証、授業改善推進プラン、年間及び週ごとの指導計画に基づき、教科等横断的且つ習得・活用・探究の視点に立った授業改善に努めるとともに家庭学習推進リーフレットを活用した家庭学習習慣確立を目指す。
- ② 各種教育支援事業や学校外教育力の効果的活用を図り、児童の学力実態に応じた習熟度別指導や多様な学習機会の創造、補充的な学習を通し、学習意欲の向上を図る。
- ③ 「学校生活支援シート（個別の教育支援計画）」「個別指導計画」等の活用を図り、特別な支援を要する児童への児童理解を深め特別支援教育の充実及び不登校支援に努める。

ウ「豊かな心」の醸成（学校教育目標「ウ 心豊かで思いやりのある子」）

- ① 組織的な生活指導体制を推進し、「二小ベーシック」に基づく全校統一した生活指導を実践するとともに、都の人権尊重教育推進校として人権意識の向上を図る。
- ② ふれあい月間等の期間を重点に、日常的にいじめの未然防止、早期発見・解決を図るとともに、いじめ防止基本方針の徹底及び校内いじめ対策委員会の機能充実を図る。
- ③ 異文化交流や福祉体験、環境教育等の指導の充実を図り、「人権教育プログラム」に基づく人権意識の涵養、他者理解の促進、思いやりの心の育成等を図る。
- ④ 学校図書館機能の更なる充実を図るとともに、日常的な読書指導及び読書旬間等における重点指導をとおして読書活動の充実を図り、感情や感性の発達を促す。

小・第2表

学校名 立川市立第二小学校

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間、特別活動
ア 各教科

- ① 学習指導要領の理念を踏まえ、求められる学力の定着を目指す。
- ② 「二小スタンダード」に基づく授業改善により、知識・技能の習得、言語活動や問題解決的な学習、プログラミング教育を含めたICT教育の充実を図るとともにICT機器の活用及び授業公開に努める。
- ③ 校内研究と連動した主体的・対話的で深い学びの実現に向け、対話型授業による学力（思考力・判断力・表現力等）の育成を重点に全教科・領域等で取り組む。

イ 特別の教科 道徳

- ① 道徳教育推進教師を中心に、教科書、都の道徳教育教材集等の活用を図り、全体計画及び年間指導計画に基づき全教育活動において道徳教育を推進する。
- ② 道徳科を要として、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度の育成を目指すとともに、道徳授業地区公開講座等を通じ家庭・地域と連携して児童の道徳性を養う。
- ③ 「SNS東京ノート」を活用した情報モラル教育を教科指導と連携し推進する。

ウ 外国語活動・外国語

- ① 外国語の基礎的コミュニケーション能力の育成を図り国際理解教育を推進する。
- ② 小中連携外国語活動及びALT活用の充実により、学習意欲の向上を図る。

エ 総合的な学習の時間

- ① 課題意識をもって探究的活動や体験活動を通して、より良く問題解決しようとする能力を育て、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を図る。
- ② 立川市民科におけるボランティア等外部教育力の活用を図る単元開発に努める。

オ 特別活動

- ① 縦割り班活動やクラブ・委員会活動における異学年交流等、多様な人との関わりを通して、豊かな人間関係の構築及び人間関係調整力の向上を目指す。
- ② 集団活動における自主的・実践的な行動力を身に付けさせる指導の充実を図る。

(2) 特色ある教育活動

ア 全校でのオリパラ観戦を通して、オリパラ教育の興隆を推進する。

イ 救命救急講習、多摩シビックプライド、認知症サポーター養成講座等の取組を通して、立川市民科の充実を図る。

ウ 学校関係者評価を活用し、より一層地域と連携した特色ある教育活動の充実を図るとともに、随時学校HP等による情報発信を行い、ネットワーク型学校経営を推進する。

エ 第1学年では、スタートカリキュラムの視点から、合科的な指導展開を重視する。

(3) 生活指導

ア 立川学校支援員やSC、SSW、サポートチーム等の活用や子ども未来センター等の関係諸機関と連携して不登校解消に取り組むとともに、不登校傾向児童の居場所（にこりん）を作る。また、自殺予防に係る指導、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室、情報モラル教育等の充実を図るとともに、「防災ノート～災害と安全～」や「安全教育プログラム」等の各種補助教材、「地域安全マップ」、「学校危機管理マニュアル」を活用した安全・防災教育を推進する。

イ いじめ解消・暴力根絶旬間における「児童虐待防止研修セット」を活用した教員研修、いじめ防止授業の実施、日常のサポート会議・ケース会議の充実を図る。

(4) 進路指導

ア キャリア教育全体計画に則った「立川夢・未来ノート」の活用や、立川市民科における外部人材活用等を通して、健全なキャリア観の育成を図る。

イ 幼保・小小・小中連携教育の充実と指導の連続性を高め、学校間の円滑な接続を図る。